

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つむぎ高粱（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	令和6年10月11日		～ 令和6年11月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	255	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和6年10月24日		～ 令和6年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○訪問先施設評価実施期間	令和6年10月4日		～ 令和6年11月5日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 29
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門的な職員が見立てや具体的な支援について整理、共有の実施。	・法人学習会や外部研修、講演会など、様々な学びの機会を作り、冰山モデルや応用行動分析、構造化などを取り入れた支援を行っている。	・訪問支援と療育支援において見立てと手立ての情報共有を行う。
2	・所属機関やご家庭の要望に応じて、訪問時間や場面についての柔軟な対応。	・要望があった際には迅速に検討を行い、所属機関との調整を行う。	・所属機関や家庭の要望を確認し、要望に応じた場面への介入を実施する。
3	・同法人内に相談支援事業所がある為、困難ケースについて迅速な支援の方向性を検討、整理する機会の充実。	・困難ケースにおいては、相談支援事業所と情報共有を行い、お子さんの1日の生活や医療の状況を含めた全体像を把握して、所属機関における支援の方向性を検討する。	・所属機関や家庭での様子の変化を把握して迅速に訪問支援の提案と実施を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・学校へ行き渋りのある児童や不登校児童の訪問支援のあり方。 ・具体的な支援として視覚的な支援グッズの活用のあり方。	・行き渋りや不登校の要因が複雑化し、特性から見立てることや支援を構築する難しさがある。 ・具体的な支援グッズの活用場が少ない。	・行き渋り傾向が見られ始めた際に、特性から考えられる見立てを迅速に各機関で共有する取り組みを実施する。 ・所属機関と情報共有や見立てを整理する中で、実際の場面で支援グッズを使用し、実際の活用の様子も共有を行っていく。
2	・保護者様への訪問での具体的な直接支援と間接支援について説明のあり方。	・記録の作成の中で直接支援と間接支援の記載について整理が見えにくい。	・保護者様にとってわかりやすい支援内容の整理と記載を実施する。
3	・療育機関と訪問期間との情報共有のあり方。	・療育機関での具体的な様子や所属機関での具体的な様子について情報共有を行う場の設定が課題である。	・支援会議にて訪問職員と療育機関での共同した会議を実施し、情報連携を高めていく。